

- こ——耕雲お寺の侍たちは、死後も忠勤はげむらし（耕雲寺）
- え——枝は伸び行き広がるばかり、字梶内の稲荷松（梶内の大松）
- て——てがらたてたる六十三騎　小手の若武者名は死なず（六十三騎）
- あ——ああ有難や、薬師堂、小笹の姫を思い出す（薬師堂）
- さ——さても不思議の魔のわざ秘わざ、犬飼嘉作の語り草（犬飼嘉作）
- き——君と連れたち踊坊行けば、元暦古碑の影わびし（元暦古碑）
- ゆ——行くも帰るも自家用車にて、テレビ塔建つ屏風山（テレビ塔）
- め——めんどろなながらも訴訟に勝った、堀沢山記の石の碑（堀沢山記念碑）
- み——みれば見る程とうとい山よ、富士によく似た女神山（女神山）
- し——しばし目をあげ西空見れば、小手の五岳が晴れ渡る（小手五岳）
- ゑ——ゑびす大黒弁財天や、石に刻んだ路傍神（路傍神）
- ひ——ひまがあるならわが家の歴史　由来調べてほしいもの（家系譜）
- も——もつと知りたいふるさと民話、先祖のくらしをふり返る（伝承民話）
- せ——千里離れた異郷に行けど、故郷の山河を夢に見る（ふるさと）
- す——すべてこまった悩みの果ては、幼い時代に夢馳せる（幼い頃の）
- ん——んともすんとも言わなければ、故郷の山河は母ごころ（郷里の山河）